

# とやまの星の和名

## 1 星の和名を知る意義と引用文献

小学校や中学校で星の学習をする際に、日常生活に密着した星の情報を収集したり、星や星座の観察への関心を高めたりするときの「仕掛け」として、星の和名について話をするのもひとつのアイデアです。富山県内に伝わっていた星の和名については、故増田正之先生が県内を詳しく調査され、昭和53年～61年に「富山教育」に、「越中の星ものがたり」として、80回にわたり連載されました。ここで紹介するのは、この「越中の星ものがたり」から引用した富山県の星の和名です。

## 2 小学校で学習するおもな星や星座の富山県での和名

### (1) 夏の大三角を形づくる星

こと座のベガ（織姫星）のことを「メンタナバタ」、わし座のアルタイル（彦星）のことを「オンタナバタ」という古名が残っていますが、合わせて「タナバタホッサマ」（黒部市生地）と呼ばれることも多かったようです。



（越中の星ものがたり（十二））

<原図は国立天文台HPより>

### (2) アンタレス

昔は夏になるとどこでも簡単に見ることができた天の川は、近年の人工光の影響で、なかなか見ることができなくなりました。それに伴い、さそり座も年々わかりにくくなってきましたが、さそり座の1等星アンタレスだけは、比較的簡単にさがすことができます。このアンタレスは、黒部市生地では「アカミノホッサマ」と呼ばれていました。ほかに、入善町舟見では、「ハウネンボシ」とも呼ばれていました。（越中の星ものがたり（十三、二三））。

### (3) 冬の大三角

オリオン座の1等星「ベテルギウス」の和名は「ヘイケボシ」リゲルは「ゲンジボシ」と、富山県でも全国的に呼ばれていた古名が伝わっています。冬の大三角を作る星のうち、最も明るいシリウスは、全国的には「アオボシ」と呼ばれていましたが、黒部市生地では「アオミノホッサマ」という古名で呼ばれていました。増田正之先生は、越中の星ものがたり（十三）において、「熟視すると「アカボシ」にちらりと緑色が見え、『アオボシ』



にはこちらもちらりと赤色加わる。このような精細な観察をもとにして、『アカミノホッサマ』『アオミノホッサマ』とよんだとすると、越中人の観察力を誇示してもよいのではないかと思われる」と述べられています。

また、冬の大三角の最後の一つ「プロキオン」についても、「シロボシ」という名が伝わっています。（越中の星ものがたり（二一、六四））

#### (4) オリオン座

「カラツキボシ」：富山大学天文同好会が昭和54年に氷見市灘浦で調査して明らかになった、オリオンの三つ星と小三つ星をあわせて、農耕具の「カラスキ」に見立てた古名。県外では北海道余市、新潟県、福井県、島根県隠岐などに同じ呼び名で伝えられているそうです。（越中の星ものがたり（二十））「タケツギボシ」（入善町舟見地区）「サオボシ」（射水市小杉地区）：いずれもオリオンの三つ星の古名。（越中の星ものがたり（二五、六十））

#### (5) カシオペア座

「イカリボシ」：入善町で発見された古名。ただし、この呼び方は全国各地の漁村で見つかっています。（越中の星ものがたり（二五））

#### (6) 北極星

北極星は航海や漁に出たとき、方位を知る大切な星です。県内でも、海岸部を中心に多くの古名が伝えられています。

「ネノホシ」（朝日町）、「メジルシボシ」（富山市）、「オヤボシ」（射水市下村地域）、「メアテボシ」（入善町舟見地区）、「キタノハシボシ」「ヒトツボシ」（宇奈月地区）「メジルシのホッサマ」（富山市大山地区）、「カジボシ」（上市町：こぐま座として認識されたのか？）「コヒシヤクボシ」（こぐま座：入善町舟見地区）。（越中の星ものがたり（十七、二五、七八））

#### (7) 北斗七星

北極星ともども航海の目印になる星の並びですので、県内でも海岸沿いでいくつかの古名が採集されています。「カジボシ」（魚津市）「カズボシ」（朝日町）「キタノカジボシ」（氷見市）「スシヤクホッサマ」（黒部市）（越中の星ものがたり（十四））



### 3 富山県らしい特徴的な星の和名

#### (1) ぎよしゃ座のカペラ

「サドボシ」：ぎよしゃ座のカペラは、夏の明け方に北東の空から上がってきます。魚津市経田では、北東の方位には佐渡島があり、佐渡の方面から出るので、「さどぼし」と呼んだそうです。さどぼしが夕方北東の空に現れるようになる時



期に、イカを釣るときの時間の目安にしたり、明け方、さどぼしが見える時期に漁から帰る目安として使ったそうです。（越中の星ものがたり（二二、五十））

(2) ふたご座のカストル・ポルックス

「フタツボシ」富山市四方や新湊で呼ばれていた名前です。（越中の星ものがたり（二一））

(3) すばる（おうし座のプレアデス星団）

「スバル」：プレアデス星団は全国的に「すばる」と呼ばれていますが、富山県でも「すばる」という名で親しまれてきました。越中の星ものがたり(六)には、上市町千石では、「スバルさまが西の空にあるようになると雪が降る」。五箇山では、「スバル星が頭の上に来たとき、そばをまくとよくとれる」。朝日町宮崎では、「スバルが山にかかると海がしける」等、時計が普及していない時代に自然観察と生活が密着していた様子がのせられています。



「ソウダンボシ」：黒部市愛本地区に伝わる和名とのことです。すばるの星がかたまっている印象がよく現れている古名といえるでしょう。（越中の星ものがたり（六））

「ハゴイタボシ」：（越中の星ものがたり（十八））

「カジボシ」：四方、新湊では、北極星や北斗七星ではなく、すばるのことをこう呼んだ。「カズボシ」がなまったものか。（越中の星ものがたり（十八））

「ブドウノホシサン」：富山市大山町に伝わる和名。（越中の星ものがたり（十三））

なお、ヒアデス星団の方は「ツルガネボシ」（釣鐘星）と呼ばれていたそうです。（越中の星ものがたり（十七））

(4) 春の大三角

「アンサマボシ」：富山市八尾で採集されたうしかい座のアークトゥルスりょうけんの古名。不二越工業の生徒から、全国的に呼ばれている「ムギボシ」も採集されている。（越中の星ものがたり（二四、四三））。



「アネサマボシ」：おとめ座のスピカ。旧八尾町仁歩地区。（越中の星ものがたり（二四））

(5) かんむり座

「ヘツツイボシ」：富山市緑町で採集されたかんむり座の古名です。かまどの古名を「ヘツツイ」と呼びました。（越中の星ものがたり（二三、二七））

「オクドサン」：南砺市福光地域に伝わっていた古名。砺波市鷹栖では、「オクド」とは、わら灰を入れるために土間に掘った穴のこと（越中の星ものがたり（四十））



(6) ペガサスの四辺形

「マスボシ」：射水市大島地域で発見された古名。（越中の星ものがたり（六六））

(7) いて座の南斗六星

「ミナミノカジボシ」（氷見市）。（越中の星ものがたり（十四））

(8) 空の透明度が良くて、星が多く見える状態

「ホシばる」：かなり県内の多くの地域に広がっていた方言だったようです。（越中の星ものがたり（八））



4 惑星、彗星、流星

(1) 金星

「ママタキボシ」：氷見の漁師の間で使われていた金星の古名だそうです。この星が見えたら、漁に出ている船は、朝食の準備にかかったそうです。

ほかにも、金星は、「オーボシ」「イチバンボシ」「ヨアケノミョージャ」「ヨアケノミョージン」「アサノミョージンサマ」「デカボシ」等多彩な名で呼ばれていました。宵の明星よりも明けの明星にちなんだ名が多いことから、昔の人がいかに早起きだったかもしのばれるようです。（越中の星ものがたり（十一ほか））

(2) 木星

「ヨナガボシ」：富山大学天文同好会により、氷見市中田で採集された木星の古名。（越中の星ものがたり（二十））

(3) 火星

「ツバミボシ」：県内では唯一「大若子命の遠征と越中護国八幡宮」という小冊子にみられる火星の古名で、「銚から鰐が抜け飛んで、赤い尾をひいて立山の上空へ浮かんで、そのままツバミ星になった」と伝えられています。（越中の星ものがたり（七））

(4) 流星

「インキリボシ」：流れ星は、全国的には、「ヨメイリボシ」と呼んでいた地方が多いそうです。ところが、大山周辺では、「インキリボシ（縁切り星）」という古名が残っていたとのこと。なお、となりの大沢野周辺では、「ヨバイボシ」という古名が伝わっていました。（越中の星ものがたり（十二））